



No. 15

発行所 つなぐ手会 山形県親の会 事務所 山形市旅籠町1丁目10番30号 山形市社会福祉会館内 TEL (3) 山形 6572 印刷所 米沢新聞社

カ売 ア販

みごと目標こえる

県婦連、かつてない協力

栄光園(仮称)建設のためのアデカソフト販売運動は、親の会会員の積極的な動きと、県婦人連盟、県社会福祉協議会の協力が大きく実を結び、七月八日で目標を突破し、初期の目的である二百万円の資金を生み出した。

アデカソフト販売運動は、県下二十七万世帯に対して目標三万個というので、はじめは県関係者も首をかしげていた。しかし親の会会員が中心となって、組織から組織に働きかけ運動をエスカレートさせるといふ作戦が見事に功を奏したわけ。五月末、県下全域にわたる「田植え」で運動はカベに突き当たり、二万六千個で足ぶみをつづけた。この事務局は、五月末までの期限をとりはらい、個数をのばして初期の目的を達成する決意をし、メーカーも了承した。その後は再び順調な伸びをみせ、六月なかば九世帯に一個(二十七万世帯に三万個)という目標を

ほとんど内陸だけでつきぬけた。事務局は現在、最後のしめくりをつけるために大わらわとなつているが、七月にはいって配達されたものも、八月なかばまで集金が終わるみこみである。

一方このアデカソフト販売運動は「たんに売って資金を生み出す」というだけでなく「実践をとおして支部づくりを行なう」という前提でスタートし、会長はじめ事務局員が各種のつどいにかけて、親の会の現状と目的を訴えたため、各支部に新規加入が目立ってきたほか、南陽市と上市市に新しく支部が結成されるという成果をあげた。事務局は二十一日ひらかれる理事

昭和四十三年度 第四回県手をつなぐ親の会 通常総会が開催された

例年の行事としておこなわれていた通常総会が山形県民会館で盛大に開かれた。去る五月五日(日)昭和四十三年度事業計画並びに予算案に関する審議を中心に活発な質疑応答がかわされて原案どおり満場一致で決議された。今年度の主な事業として精薄者授産施設(栄光園)のために洗剤販売と本会発足十周年を記念し(栄光園)建設促進総決起大会を山形市会場として九月中旬頃盛大に開催する考えでいる。またNHK更生文化事業団の主催による講演、教育、医療、指導、生活などの相談事業を共催する。この三項目を本年度の大事業として本会のP・R活動を積極的に推進することにした。

次に予算案は前年度予算額より四二八、〇〇〇円増になっておりますが、事務費や事業費の増加に伴ってふえているものである。出席者三〇〇名、委任一七〇名で例年に見られない大勢の出席者で総会が進行された。中村会長の挨拶として 昭和四十二年度は重症心身障害児施設誘致の成果を基として精薄者授産施設(栄光園)の敷地購入をいたし、昭和四十三年度に向つて一歩前進することになった。ようやく私どもに光がさしこんできた感じがしま

す。これらの解決も県当局、関係諸団体のご協力によるもので感謝にたえない次第であります。 ちえおくれの子がいるために親兄弟が犠牲になってはいけません。自分の子を含めて社会問題として世に訴えて行かなければならない。今年度はできれば、親なき後の保障のために保険扶養制度を市町村単位または県単位でやってくださるようにならなければならない。

私達はかたく手をつなぎあって行けば、何事もやれないことはないと思ひます。 『祝辞』として板垣副知事殿並びに金沢山形市長殿の祝辞がのべられたが非常に情のこもった激励の言葉でありました。 特に金沢市長さんの祝辞のなかに次のことがのべられた『子供の日にこのような行事をやる皆さんは大へん意義深いものと存じます。五体満足である私達は、ほんとうに感謝しなければならぬと思う。福祉制度がまだまだ遅れているが、日本にとつて精薄児者の対策はこれといって解決されていない。その苦境にあつて県手をつなぐ親の会の活動運動は大変立派なものである。』

近く米沢に収容授産施設の建設を計画しているが、私共一般人も社会の問題として協力し、実現してやりたいと思つている。山形市でも収容を授産施設考えているが、すでに土地を購入しているの、是非実現に努力したい。』とのなかにも感謝と

激励の言葉がたくさん含んであり、
勇気づけられた次第です。

進行 伊藤 泉
議長 青木 友夫

昭和四十二年度事業並びに一般会
計決算、特別会計決算に関する件に
ついての監査報告がなされ、つづい
て任期満了に伴っての役員改選は
若手の就任、退任の役員がありまし
たが、ほぼ従前通り再任されていま
す。

最後に精薄者収容授産施設県外視
察報告として米沢市会議員山村栄氏
が広島県、神奈川県、富山県などの
視察報告をくわしく説明され、出席
者一同に強いインスピレーションを
与えた。尚紙面の関係で視察報告を
今回の会報にのせたいと存じます。
五月五日の子供の日にふさわしい
県手をつなぐ親の会の総会でありま
した。

精薄者授産施設の

展望と課題

本会と県精薄者福祉協会で精薄者
の授産施設『栄光園』の建設計画に
ついては、すでに本誌並びに各報道
機関によって報じられたことと承
知の通りである。それによると近く
国の社会福祉法人認可を待って総工
費約四千万円で収容棟、管理棟、作
業棟などを建設する計画である。す
でに敷地九千坪が確保されており、
はやければ明年の秋頃に建設に着工

して翌年の春開所する考えで進めて
いる。この仕事にたずさわる関係者
の役員は日夜東奔西走努力を重ねて
いるが、まだまだ樂觀の許されない
問題が前途に横たわっている。

まず第一に資金の確保、次に指導
員の確保、第三は施設そのものの将
来性である。建設資金のメドについ
ては若干の見通しがついているもの
の今後会員相互の努力が要望される
このような施設建設は他人まかせ
であってはならない。一人一人の努
力と協力によって完成されるもので
あり、ひいては、施設そのものが社
会福祉的役割を果たすのであります。
何ごとも一つ一つのものを解決しよう
とするには余程の努力と忍耐が必要で
ありますが、陣痛の戦いから生れ
た施設の完成であればその愛情はど
の施設にも優るものと信じます。

だが他人まかせの『栄光園』建設
であれば砂の上に建てられた家のよ
うなものであり、その存在価値は貧
しく、世の煩いにおおされて行くで
あろう。私達は施設をつくりさえす
れば精薄児者は幸せになったとはい
えない。または解決の糸口を見いだ
したとはいえない。たえずどのよう
な境遇におかれても子ども親との
愛情の交流がなかったならば、施設
であろうと職親制度であろうとこの
子どもたちには救いはないである。
施設においても指導員の激励、監
督がたえず保護によって緊密化され
なければ保護者にかわっての良き指
導、教育はなされないのである。

すべてこのような点は保護者の自
覚と熱意によるもので、施設の善悪
が決まるのであります。もしこれが
私達にとって絶対必要な施設であ
ればその努力と協力はおしみなくさ
げて行かなければならない。しかし
『栄光園』建設は決して苦難では
なく将来の展望は明るい。国が群馬
県の高崎に何十億円とかけて国立コ
ロニーを作っているが、果してこれ
がよいものか。その何十分の一の費
用で県ごとに作ったらよいか、また
私達の建てる『栄光園』がよいもの
であるか今後の課題として残るであ
らう。会員一人一人の結晶によって
完成させたいものである。

中村律会長に

大臣感謝状

去る五月二十七日児童福祉法施行
二十周年式典が厚生年金会館（東京）
で盛大におこなわれた。
敗戦後荒廃と混乱の中で生れた児
童福祉法は子どもたちのために数々
の問題点を解決しつつ過去二十年の
才月を踏んできた。戦争で両親兄弟
を失なった子ども、義務教育からさ
え締め出された肢体不自由児、しか
ばねのようにして生きてきた重症心
身障害児など多くの不幸な子供達
のため制定されたのが児童福祉法で
あります。しかしこれらの福祉法も
完全とはいえず取り残された児童は
少なくはありませんでした。
その逆境にたって児童憲章および

権利を主張して児童福祉事業に功績
のあったひとびとに感謝状がおくら
れたのであります。文字通り山形県
内では児童福祉向上に、ひたすら努
力してきました中村会長と元山形県
社会福祉協議会事務局長の松田仁兵
衛氏の兩名に厚生大臣の感謝状がお
くられたのであります。

中村会長についてはすでにご存じ
の通り山形県手をつなぐ親の会の育
ての親であります。あ的一般社会か
ら疎外されてきました精薄児者のた
めに献身的な働きをもって打ちこん
でまいりました。それがようやく一
般社会に理解される段階にいたった
が、中村会長をはじめとする役員一
同の努力の賜ものと存じます。

これからも本会の発展と中村会長
のご健闘ご活躍を祈りつつ不幸な子
どもたちのために頑張りたいと思ひ
ます。

東北地区社会福祉

ゼミナーについて

社会福祉の各分野に活躍されてい
る人をソーシャル・ワーカーと呼ん
でいる。そして社会福祉を強化、発
展させようとして意見の交換や研究
をおし進めている人達の集りをセミ
ナーと呼びます。
会員制度になつていゝるもので、世
界的に大きな組織をもつて活動して
いるものであります。十年程前日本
にもこの運動が叫ばれ、ポツポツ
各地区ごとに組織がつくられてきま

した。しかし、現在のところこの運動を積極的に推進している地区は、東北、関西、近畿地方の一部であって、今後の発展の成行きが注目されます。山形県の担当者は県社会福祉協議会の組織部長をされている渡辺剛士氏で、県内の福祉事業について指導と研究をされている方でありま

す。去る五月十一日第十回目の東北地区社会福祉セミナー大会が仙台市役所で開催され、県手をつなぐ親の会にも参加するよう呼びかけられましたので出席致しました。特に今度の研究課題は『地域ぐるみの精神薄弱者の受け入れについて』のテーマで精薄児の諸問題について研究がなされたわけでありま

参院選 (全国区)

山下春江先生当選おめでとう

たえず私たちの味方として社会福祉や教育問題に取り組んでまいりました山下先生は今度の参院選(全国区)で見事当選され、今後の福祉面での活躍が期待される。

衆院議員当選6回、昭和37年より参院議員に移り、今回で2期目を迎えたのでありますが、議員生活20余年の間、精薄者対策委員長を務め、全日本手をつなぐ親の会の顧問として長年ご協力下され、精薄者福祉法の制定、扶養手当の創設、対策の振興、研究調査費の獲得、特殊教育の振興などに全力を尽してその成果をあげました。これからも私たちの仲間として一層発展させたいと願っています。

されてはいる殆んどの人達はソーシャル・ワーカーとして各分野で働いている指導者、ボランティアの人で、直接親ごさんに聞いていただけなかったことが残念に思いました。その点手をつなぐ親の会の集りなどは有意義に存じます。

午後の研究協議には『地域ぐるみの精薄者の受け入れについて』と『現段階におけるソーシャル・ワーカー協会の役割』の二題については協議がなされた。前題については地域環境の特性・地理的条件・地域ぐるみ指導上の長短等が話し合われたが、地域社会が一環となって職親と委託者の関係をよりよくするたみには行政者による熱意と職親の理解が必要とされ、施設などで生活を介護されるよりも、人間としての行動を合わせ精薄者の幸わせがよみがえる制度でなければならぬことを痛感させられた。

次にソーシャル・ワーカー協会の

役割については、いろいろと本会の発展方法、活動方法の点に協議がしほめられた。やはり本会の事業そのものが、まだ日が浅いため会員相互の協力と努力が要望された。

忍耐と努力

去る四月二十一日県精薄者福祉協会の設立総会を起として「栄光園」促進運動が活発になってきた。当協会の常務理事に就任された山村栄氏(現県手をつなぐ親の会理事)を中心とした役員数名が日夜具体的な建設計画をめぐって会合をつづけている。

お互に多忙な激務にありながら寸時の余暇をみて集る一人一人の顔は厳しく、明るい。持ち合った各自の才能を十二分に發揮して協議する問題には精薄児者といわれる世にみずてられた数千人の生命が託されている。時には難解な問題に局面した時などの表情は暗く、自分たちに与えられてはいる力の限界を知る。

また逆に苦難な問題が解決された時などは歓声にわきたつ。そしてこれらの苦楽を踏みつつ逐次積み重なってゆく金字塔には汗と涙の跡がきざまれている。日本国内でも民立民営の民間施設としての精薄者授産施設は最初であり、その建設の苦しみは他の施設にくらべようにもならない。

我々は山形県ならではと思つた。若し、これが完成された暁には『親

の会』という存在価値が歴史に長く残るであろう。人間の生存する限り、『手をつなぐ親の会』と『県精薄者福祉協会』の力と実績を通して他の福祉団体の模範としたいものである。

南陽市手をつなぐ親の会

支部 結成 総会

去る六月三日、新しい南陽市の誕生を機会に『南陽市手をつなぐ親の会』が発足いたしました。今から十年ほど前山形市手をつなぐ親の会がつくられたのを足がかりとして各市町村でもこのようなグループがつくられたのであります。しかし、そのグループ活動は非常に微力なため、社会に対して私達の悩みを十分訴えることが苦難でありました。そこで各地区の役員がいより、いろいろな問題点について協議した結果現在の社団法人山形県手をつなぐ親の会という大きな団体組織までに発展させたのであります。その間、逐次この会に参加する保護者や団体が現われたのであります。そのグループの中に宮内町支部もあつた。宮内町手をつなぐ親の会支部とするには物心両面にわたって、それ相当な苦難と努力が予想されたのであります。その第一に、支部を結成するにはそれに適した指導者が必要とされた。その第二は、愛情をもってこの会を育成して下さる人などの点があげられたのであります。しかし、どれを

みてもこれに適した指導者は少なかつた。

ところが当時町の民生委員をしていた村上義雄氏（現在南陽市手をつなぐ親の会会長）がある不幸な子どもをもつ親子さんの訴えをきき、強く心に残るものがあつた。もし私に出来るものがあれば協力したいというところから宮内町支部長という重要で且つ大変な役を申し出られたのであります。勿論、ある人達を除いては宮内、赤湯、和郷などの東南置賜方面では宮内町手をつなぐ親の会の存在すら知る人はいなかつた。その間の村上氏の努力は賞讃に勝るものがある。僅かな会費を基に子どもたちに対する将来の期待にご自分の身を託したのであります。その努力が着々と実を結び南陽支部という大きな手をつなぐ親の会が誕生されたのであります。

総会には中村律氏（県手をつなぐ親の会会長）も招きを受け社会における県手をつなぐ親の会の存在価値と意義をのべられ、最後に南陽支部の今後の発展と会員のご健闘を激励された。特に村上氏に対する会長の描写する美しい友情愛は正に手をつなぐ親の会を意味するにふさわしいものであつた。

特別報告として『コロニーを視察して』と題して山村栄理事は各県が立案、または建設している収容授産施設の状態、進展を報告され、つづいて米沢地区に予定されている授産施設の今後の計画、将来の目的につ

いて解りやすくお話しされた。県手をつなぐ親の会と県精薄者福祉協会で進めているこの施設建設はなみなみならぬ努力と忍耐が必要とされるのであります。会員の協力とご指導を念願しつつ会を閉じたのであります。

米沢市手をつなぐ親の会

通常総会に出席して

在宅児童のための懇談会をさる五月十三日米沢児童相談所で開いたのにつづいて六月二十三日米沢市立興讓小学校で在宅児と特殊学級児の保護者をまじえて通常総会を盛大に開催した。出席者は六十名を越えましたが、ほとんどの人たちは在宅児の保護者で終始有意義な総会であつた。米沢市手をつなぐ親の会の規約を見ますと、第三章の会員について次のようなことが記るされてある。

『第三条この会は特殊学級児童の保護者及び知恵おくれの子の保護者並びにこの会の趣旨に賛同する会員をもって組織する』とある。よつて正会員は「生活学級、実務学級の在學生とその卒業生の父母はじめ施設や在宅補導の保護者になるわけで、賛助会員は、この会に深い理解と愛情をもつ協力会員となるものです。もともと手をつなぐ親の会の目的の趣旨は就学免除をよぎなくされた在宅児童の保護者の集りであつて、将来について希望の少ないこの子らのため

に手と手を取り合つて強く生れてゆこうとする保護者の会である。しかし知能の軽い、重いにかかわらず同じ境遇におかれた保護者は一丸となつて、この子らに代つて社会に対して苦しみや悩みを訴えようとするもので在宅児童の集りだけではなくなつてきた。米沢市手をつなぐ親の会の会員募集についても在宅児童の保護者以外については強制することなく各自の自由意志にまかせているが特殊学級児童の保護者、施設に入所している保護者のほとんどが会員になつてゐる。このようなことは大変うれしいことであるが、学級や施設などをでて社会に自活している児童の親ごさんについては会員の強制はすべきではなく、またされるべきではないと思ふ。ただ一つの問題点は一人の人間として知恵おくれが浅い、深いの問題ではなく、同じこの世に生をうけている以上助け、助けられながら生きてゐるのが社会であ

る。このような点から自分の子どもが幸せになつたとか、解決されたとかで会員脱退されることは非常に寂しいことでありませう。お互いに自重して手をつなぐ親の会の輪を広げてゆきたいと思ふ。当地区に精薄者の授産施設がたつことについて米沢市手をつなぐ親の会をはじめ市民挙げての運動が展開しようとしてゐます。またこの総会に出席して非常に感心させられたのは在宅児童のリストが明確に把握されてゐるのが特筆すべき点であると思ふ。これも市福祉事務所、児童相談所の協力は勿論のこと会員の努力によるものと思つた。このようにして各地区の親の会が精薄者対策の飛躍的發展を期したいものと存じます。最後に会員相互の緊密な連携をたもちつつ今後の活躍を祈りつつ閉じたのであります。

昭和43年度 月別行事計画 予定

月	予	定
四月	第五回理事会	アデカソフト販売三月より実施親の会だより
五月	通常総会	
六月	アデカソフト販売終了	
七月	東北プロット大会(秋田)	第二回理事会 親の会だより
八月	山形県精薄者福祉協会法人化終了	
九月	第三回理事会(栄光園)募金活動	
十月	親の会総立十周年を記念して総決起大会	
十一月	親子講習会 特殊教育研究会 親の会だより	
十二月	第四回理事会 精薄者相談事業(NHK文化事業団)	
一月	親の会だより	
二月		
三月	第五回理事会	